あけまして、おめでとうございます。一九七九年の新春を迎え、市民のみなさんのご健勝を心からおよろこび申し上げます。

さて昨年は、不況・物価高からの脱出がままならぬまま、いらだたしく過ぎた一年のように思います。尾を引いた経済波乱は企業倒産をよび、雇用情勢の悪化へと広がって、生活不安はきびしくつのりました。職を失った方などは、どんな気持ちでお正月を迎えたのだろうかと心が痛みます。

また、地方財政のしめつけに加えて昨年は、かつてない豪雨に見舞われもし、水魔の恐ろしさをいやというほど思い知らされました。今年こそは、市民のみなさんにとっても、新津市にとっても、希望のふくらむ年になることを祈らずにはいられません。

〝住民自治〟の発展に心して

早いもので、私がご支援を得て二期目の市政をお預りしてから一年ちかく、市民のみなさんのお力を得て、水害援助・復旧に全力をあげながらも、行財政運営の効率化に工夫をこらし、精いっぱいの努力を続けてきたところです。幸い、後期基本計画のスタートした今年度は、待望の図書館・視聴覚センターの完成をみることができ、また、生活環境の整備や社会的弱者に対するいろいろな施策を展開して、くらしの向上にうれしい成果も上がっています。

市民は市政の主人公――これは、九年間燃やし続けた私の信念です。今年も住民自治の発展に心して、市民のみなさんと共に考え行動し、まちを愛し育てていく努力を重ねる決意です。どうか、一層の市政へのご参加と、変わらぬご協力をお願いする次第です。

一九七九年元旦
新津市長
志田　保

賀ぶ

市民の皆さん、あけましておめでとうございます。

ここに希望に満ちた新春を迎えるに当たり、皆さんのご清福とご繁栄を心からお祝い申し上げますとともに、平素から市議会に対する深いご理解と、暖かいご支援をたまわり、また常に貴重なご示唆をいただいておりますことを衷心からお礼申し上げます。

私ども市議会も、皆様の輿望と負託を担って、早くも四年の任期が終わりに近づきつつありますが、私は今任期後半の昭和五十二年五月から、市議会議長の重責を担わせていただいております。これまでも、常に皆さんの声を市政に反映させることを第一に、過去の経験をも生かしながら、公正円満な議会運営と市政の伸展に誠心誠意努力を傾けてまいりました。本年もまた、皆さんの創意と活力の結集を得て、市勢の一層の伸展を切望するものであります。

意見、要望に耳かたむけて

さて、長期にわたり低迷する経済環境は、市民生活を脅かし、また、地方自治体の行財政にも大きな打撃を与えております。本年も引き続きこの厳しさが予想されるところでありますが、このような諸情勢を踏まえながら、私ども市議会は市民の代表としてより一層皆さんのご意見に耳を傾け、残された任期を議決機関の機能を最大限に発揮して、市民生活の安定向上と、時代の流れにふさわしい都市づくりを目指して努力を重ねる決意であります。

どうか本年も、変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、皆さんのご多幸を心からお祈りいたしまして年頭のごあいさつといたします。

一九七九年元旦
新津市議会議長
深井　竜吉

お買物、ご用命は市内で

きつけ　本科開講
54年1月17日(水曜日)
京都きものコンサルタント協会加盟校
北信越京都きもの学院
本町4　新津技芸専門学校内
お問い合わせ　☎(2)0329(代表)

賀正
職場環境測定の御相談はどうぞ!!
日揮化学㈱新津事業所
取締役 事業所長　山田英一
滝谷本町1－26　TEL 4－3811(代)

増えるUターン 進む地方見直し

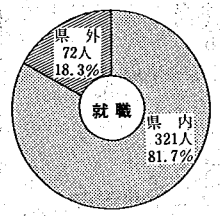
東京や大阪などから新津へ帰省している方も多いと思います。ふるさとのお正月をいかがお過ごしでしょうか。

ところで〝Uターン現象〟という言葉もすっかり耳になじみました。これは、いったん地方から大都市へ就職、または学校へ行った人が、生まれふるさとへもどってくることをいいますが、最近、目立って増えているようです。

また、ある調査では、大都市より地方の中小都市の方が住みよい、という結果も出ており、地方見直しの時代が始まったようです。

若者たちの地元志向が強まっています

52年度卒業生の就職先
(新津高校・新津工業高校の合計)



大都市集中から地方分散へ

日本の経済がハイペースで成長し続けた「高度経済成長期」の一九六〇年代には、地方から大都市へのすさまじい人口集中がありました。経済の発展に伴って、多くの労働力が必要とされたからです。

しかし、いまや大都市への人口集中の時代は終わった、といわれています。東京や大阪の人口が年ねん減っているのに、地方の都市では、わずかずつですが、着実に人口が増えているからです。これには、企業の地方分散とか、景気の停たいなどさまざまな要因が考えられますが、最近の若者に強く表われている〝地元志向〟も大きな要因の一つではないでしょうか。

強まる若者の地元志向

ところで上のグラフは、昭和五十三年三月に卒業した新津高校と新津工業高校の生徒の就職先をみたものです。

県内就職と県外就職の割合いが八対二となっており、これをみたかぎり、都会敬遠、地元志向がはっきり表われています。

新津工業高校の進路指導係の話では、ドルショック後の昭和四十八～九年を境に、県内就職と県外就職の比率が逆転したということです。この理由としては、

▼県内企業の賃金待遇などの労働条件が県外に劣らなくなった
▼兄弟が少なく、長男が多いため地元に残る
▼親が子どもを手離したがらない

などがあげられています。

また、県外からの求人が少ないかというとそうではないのです。五十二年度には、一人当たり十社の求人がありました。これに対して県内企業の求人は一人当たり〇・七社。このような格段の差があるにもかかわらず、地元就職希望が圧倒的に多いのです。

これをとらえて、短絡的に「都会より地方がいい」とはいえないと思いますが、地方には都会にない魅力があるといえそうです。

そこで次のページから、Uターンされた三人の方に、都会と地方の違い、地方の魅力などを語っていただきました。

よい子たちの
年賀状を紹介します

金津小学校のお友だちから年賀状が届きました。版画を使った、とても楽しいものです。次のページから上段に掲載しましたのでごらんください。

お買物、ご用命は市内で

新津市代表二大銘菓　松坂踊り・新津松坂　新津菓子協同組合

明けまして　おめでとう　ございます
市民の皆様、昨年中はいろいろと有難うございました。この一年のご愛顧に感謝をこめて新年の御挨拶を申し上げます。
御年始用和洋菓子一式　たくさん取揃えて
ご参来をお待ち申し上げます。